

## Lesson17

受動態/この軟膏はガマの汗から作られています。

This ointment is made from sweat of toads.

**受動態（受身形）**は「be 動詞+過去分詞」という構成で作り、「～される」という**受身**の意味になります。**受動態**にすることで**行為者**が誰なのかを曖昧にしたり、注意を向けたい内容に**焦点**を当てることができます。**受動態**の文では**他動詞**や**群動詞**が多く使われています。**This ointment is made from sweat of toads.**「この軟膏はガマの汗から作られています。」も**受動態**の文です。

このレッスンを受講することで受動態について理解できます。

## ■ Topics

受動態/ This ointment is made from sweat of toads.

- Topic1** 受動態の作り方と意味
- Topic2** いろいろな時制の受動態
  - 進行形の受動態
  - 未来形の受動態
  - 完了形の受動態
- Topic3** 注意すべき受動態
  - SVOO 型の受動態
  - SVOC 型の受動態
  - 群動詞の受動態
- Topic4** ● 知っておく方がよい表現
- Wrap-up**

DVD 版では練習問題の解説も行います。



**This ointment is made from sweat of toads.**

## ■ Topic1

### 受動態の作り方と意味

**受動態（受身形）**は「**be** 動詞+過去分詞」という構成で作られ、「～される」という**受身の意味**になります。**受動態**の文の**主語**は**過去分詞**の**動作対象**となっています。**受動態**は**行為者**が誰なのかを曖昧にしたい時や、何かに**焦点**を当てたい時などに使います。以下に**受動態**の文をいくつか紹介します。

**The room was cleaned by Tom.** 「その部屋はトムによって掃除されました。」

**the room** 「その部屋」が **clean** 「掃除する」の**動作対象**となっています。トムが掃除したということに注目を向けることができます。

**This machine was invented by the engineer.**

「この機械はその技術者により発明されました。」

**this machine** 「この機械」が **invent** 「発明する」の**動作対象**となっています。**誰**が発明したのかということに注目を向けることができます。

**注意**：**by** 以下を省略しても文として成り立ちます。**This machine was invented.** 「この機械は発明されました。」この文は、誰により発明されたのかわからない時や、誰が発明したのかを曖昧にしたい時などに使います。

## ■ Topic2

### いろいろな時制の受動態

**能動態**の文でいろいろな**時制**が使われるのと同様、**受動態**の文もいろいろな**時制**で使うことができます。

#### ●進行形の受動態：be 動詞+being+過去分詞「～されつつある」

**A fund-raising activity is being held by supporters of the governor.**

「資金集め活動が知事の支持者達により行われています。」

「**is being** +過去分詞」という構成を使って**現在進行形**の**受動態**にしています。

#### ●未来形の受動態：will be+過去分詞「～されるでしょう」

**A proposal will be put together by a team of young employees.**

「提案書は若い従業員達のチームにより作成されます。」

「**will be**+過去分詞」という構成を使うことで**未来形**の**受動態**にしています。

#### ●完了形の受動態：have been+過去分詞「～された」など

**The wiring has been repaired by an experienced electrician.**

「その配線は経験豊富な電気技師により修理されました。」

「**has been** +過去分詞」という構成を使い**現在完了形**の**受動態**にしています。

## ■ Topic3

### 注意すべき受動態

他動詞や群動詞の多くは受動態で使うことができますが、能動態の文型を意識する必要があります。

#### ●SVOO 型の受動態

SVOO 型の文は目的語(O)が2つあるので、2つの異なる受動態の文を作ることができます。

**能動態** : The company sent Ms. Wayne an invoice.

「その会社はウェインさんに請求書を送りました。」

**受動態** : Ms. Wayne was sent an invoice by the company.

「ウェインさんに請求書がその会社により送られました。」

**受動態** : An invoice was sent to Ms. Wayne by the company.

「請求書がその会社によりウェインさんに送られました。」

どちらの文も the company 「その会社」が送ったことに焦点を当てています。

**注意** : 2つ目の目的語を主語にする時は The company sent an invoice to Ms. Wayne. という文を意識して受動態の文を作る必要があります。そのため、前置詞 to が必要です。

#### ●SVOC 型の受動態

SVOC 型の目的語(O)を主語にして受動態の文を作ることができます。

**能動態** : The government kept information on the accident secret.

「政府はその事故についての情報を秘密にしていました。」

**受動態** : Information on the accident was kept secret by the government.

「その事故についての情報は政府により秘密にされていました。」

この文では the government 「政府」が秘密にしたことに焦点を当てています。

**能動態** : Many scientists consider Dr. Wildo (to be) a fraud.

「多くの科学者はウィルド博士のことを詐欺師と考えています。」

**受動態** : Dr. Wildo is considered (to be) a fraud by many scientists.

「ウィルド博士は多くの科学者により詐欺師と考えられています。」

この文では many scientists 「多くの科学者」が考えているということに焦点を当てています。

**注意** : think, find, consider, believe などの受動態の文には能動態の文と同様、補語の前に to be を入れることもあります。

注意：補語が名詞の場合、補語を主語にして受動態の文を作ることはできません。

能動態：They believed John to be a good teacher.

「彼らはジョンが良い先生だと信じていました。」

この文では補語も名詞となっていますが、下のように補語を主語に受動態の文を作ることはできません。

受動態：

 John was believed to be a good teacher. 「ジョンは良い先生と信じられていました。」

 A good teacher was believed John.

### ●群動詞の受動態

群動詞とは動詞＋副詞（前置詞）により構成される熟語の事です。例えば、talk about や turn off も群動詞です。

能動態：Participants talked about the matter. 「参加者たちはその件について話し合った。」

受動態：The matter was talked about by participants.

「その件は参加者達により話し合われた。」

受動態にしても about までつける必要があります。

能動態：Someone turned off the alarm system. 「誰かがその警報装置の電源を切りました。」

受動態：The alarm system was turned off by someone.

「その警報装置の電源は誰かにより切られていました。」

受動態でも off が必要です。

## ■ Topic4

### 知っておく方が良い表現

受動態を使ったよく使われる慣用表現を紹介します。これらは文法セクションだけでなく読解セクションなどでもよく見かける表現です。

If this situation continues, I will be forced to do something about it.

「この状況が続くと、私は何かせざるを得なくなるでしょう。」

be forced 「強制されている」という部分に受動態が使われています。I will be forced to ~を直訳すると「私は~することを強制されるだろう」という意味ですが、これは「私が~するのは

やむを得ないだろう」という日本語とほぼ同じ意味になります。

**It is said that something will happen tomorrow.**

「明日何かが起こると言われています。」

**is said** 「言われている」のところが**受動態**です。**it is said that** ～は「～であると言われている」という意味です。

**It is believed that the situation of the company will improve soon.**

「その会社の状況はすぐに改善するだろうと信じられています。」

**is believed** 「信じられている」のところが**受動態**です。**it is believed that** ～は「～と信じられている」という意味です。

**I am supposed to work tomorrow.** 「私は明日働くことになっています。」

**am supposed** 「思われている、推定されている」のところが**受動態**です。**be supposed to** ～ 「～することになっている、～するはずである」の意味の熟語です。

**Guests are expected to arrive shortly.** 「お客さまはすぐ着くと思われます。」

**are expected** 「期待されている」のところが**受動態**です。**be expected to** ～ 「～と期待されている、～のはずである」の意味の熟語です。

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



例題 : This machine \_\_\_\_\_ Dr. Wu.

- a. invented
- b. was invented by

答えは **b. was invented by** 「～により発明された」(**be** 動詞+過去分詞+前置詞)になります。後ろについている **Dr. Wu** 「ウー博士」と問題なくつながります。

**invent** 「発明する」は他動詞なので発明する対象の **this machine** を主語に **this machine invented** ～ という文にすることはできません。「この機械は～を発明しました。」では変だからです。受動態をポイントにする問題はよく出題されますが、落ち着いて考えればすぐに正答できる問題です。素早くポイントを見抜いて時間をかけすぎないようにすることが得点アップのコツです。

**This machine was invented by Dr. Wu.** 「この機械はウー博士によって発明されました。」

**ガ**マの油売りってご存じですか？筑波山の麓に前足の指が4本、後ろ足の指が6本のガマガエルがいるそうで、このガマガエルの汗から作ったのがガマの油だそうです。では、どうやってガマガエルの汗を集めるかというと、ガマガエルのまわりに鏡を立てるとガマガエルは自分の姿に驚いて脂汗を流すというのです。このようにガマの油売りの口上の中には誰がガマガエルを捕まえて鏡を周りに立てるのか、などの情報が出てきませんが、もし以下のようになっていたらどうでしょう。

**I put mirrors around a toad to collect sweat from it.** 「私はガマの汗を集めるために、ガマの周りに鏡をおきました。」こんなふうに言うとな「へえ～、あなたはずいぶん変わったことをする人だね～」とか「ガマガエルはおとなしくしてるんですか？」などいろいろなツッコミが入りそうです。

そこで、**Mirrors are put around a toad to collect sweat from it.** 「ガマの汗を集めるために、鏡がガマの周りにおかれます。」のように受動態の文にしてみます。このような文にすることで、聞いている人の注意を **mirrors** 「鏡」、**toad** 「ガマガエル」、**collect sweat** 「汗を集める」などに向けることができ、スムーズな展開の口上になりそうですね。

このように特定の内容に注意を向けたい時や誰によって行われたのかを隠したい時に受動態は有効です。

コーヒープレーク (DVD 版のみ収録)

## Wrap-up

- 受動態は **be** 動詞 + 過去分詞で構成。
- いろいろな異なる時制の受動態の作り方に注意。
- **SVOO** 型、**SVOC** 型、群動詞などの受動態の構成に注意。



**This ointment is made from sweat of toads.**

**「この軟膏はガマの汗から作られています。」**

主語 形容詞 + 名詞

this ointment 「この軟膏」

述語動詞 be 動詞 + 過去分詞

is made 「作られている」

追加情報 前置詞句

from sweat of toads 「ガマガエルの汗から」

## Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. The report was \_\_\_\_\_ by an independent journalist.
  - a. wrote
  - b. to write
  - c. written
  - d. writing
2. Diplomas will be \_\_\_\_\_ graduates during the commencement ceremony.
  - a. to hand
  - b. handed to
  - c. handed
  - d. handing
3. Your car is \_\_\_\_\_ now.
  - a. being
  - b. repairing
  - c. be repairing
  - d. being repaired

## Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. The woman was \_\_\_\_\_ a tax investigator.
  - a. believed to be
  - b. believing to be
  - c. to be believed
  - d. being believed
2. The problem will be \_\_\_\_\_ as soon as possible.
  - a. deal
  - b. deal with
  - c. dealt
  - d. dealt with
3. The final inspection has \_\_\_\_\_ until next Tuesday.
  - a. put
  - b. put off
  - c. been put off
  - d. been putting

## Explanation - Practice

### 1. The report was written by an independent journalist.

「この報告書はフリーの記者により書かれたものです。」

解説： **c. written** 「書かれた」(過去分詞) が答えです。受動態の文を構成するために過去分詞を選びます。 **c. written** 以外のすべての選択肢は過去分詞ではありません。

**a. wrote** 「書いた」(過去形) は **be** 動詞の後ろに直接つながられません。また、**write** は他動詞なので目的語(～を)が必要になります。後ろの **by an independent journalist** は目的語ではありませんから、つながられません。ですから、**b. to write** 「書くこと」(不定詞)、**d. writing (ing 形)** を入れることはできません。

### 2. Diplomas will be handed to graduates during the commencement ceremony.

「卒業証書は卒業式の間卒業生達に手渡されます。」

解説： **b. handed to** (**hand** 「手渡す」の過去分詞 + **to**) が答えです。 **hand** は **SVOO** 型の動詞ですが、**hand** 人物の物を主語に受動態の文を作る場合は **hand 物 to 人** という形から作ります。後ろの **graduates** は「卒業生達」の意味なので、**b. handed to** を入れると **Diplomas will be handed to graduates** となり「学位は卒業生達に手渡されるでしょう。」という受動態の文になります。

**a. to hand** 「手渡すこと」(不定詞) を入れると、主語が「卒業証書」になっていますし目的語は「卒業生達」なので「卒業証書は卒業生達を手渡すことでしょう」のような意味になってしまうのでダメです。**c. handed** は過去分詞と考えた場合、受動態の文を構成できますが「卒業証書に卒業生達が手渡されます。」のような意味になります。**d. handing (ing 形)** では未来進行形を作れますが、やはり「手渡しする」の主語が卒業証書であること、手渡すもの(目的語)が卒業生達であることに問題があります。

### 3. Your car is being repaired now. 「あなたの車は今修理中です。」

解説： **d. being repaired** (**being + repair** 「修理する」の過去分詞) が答えです。 **now** がついているので現在進行形にします。 **repair** は「修理する」という動作を意味する動詞を進行形にします。また、車は **repair** 「修理する」の動作対象となるので受動態の文にします。 **being repaired** という形を使うことで進行形の受動態の文を作ることができます。

**a. being** は、「存在、～であること」(名詞)、**be** 動詞の **ing** 形などですが、これだけでは文が完結しません。**b. repairing (ing 形)** では **your car** が主語になり、「車が修理している」という意味になる点が問題です。また、目的語も必要になります。**c. be repairing** (**be** 動詞の原形 + **ing** 形) ですが **is** の後につながられません。後ろには目的語も必要です。

## Explanation - Homework

### 1. The woman was believed to be a tax investigator.

「その女性は税務調査官だと信じられていました。」

解説： **a. believed to be** (**believe** 「信じる」(過去分詞) + **to be**) が答えです。 **believe** は **SVOC**



型の使い方がある動詞です。**SVOC** 型の受身形を作る時は 主語 **is believed (to be)** 補語という構成をとります。**to be** は省略することもできます。

**b. believing to be (ing 形+to be)** については **believe** は状態動詞なので進行形にしません(レッスン 21 参照)。また、**SVOC** 型の文を構成するためには **to be** の前に目的語も必要になります。**c. to be believed (to+be 動詞の原形+過去分詞)** はは前からのつながりとしては可能です。でも、**believed** が過去分詞になっているため、後ろに目的語を取ることはできません。**d. being believed (be 動詞のing 形+過去分詞)** については **to be** はなくても **SVOC** 型の受身形にすることができますが、**believe** が状態動詞であるので進行形にはしません。

**2. The problem will be dealt with as soon as possible.** 「その問題はすぐに対処されるでしょう。」

解説 : **d. dealt with** が答えです。**deal with** ~ 「~に対処する」(群動詞) の **deal** が過去分詞になったものです。

**a. deal** 「取引」(名詞)、「取引する、扱う」(動詞) ですが、名詞として考えた場合は「その問題は取引になるでしょう」という意味になり不自然です。また、**deal** は可算名詞なので冠詞が必用です。動詞として考えた場合は **be** の後に動詞の原形をおくことはできません。**b. deal with** の後ろには名詞が必要です。**c. dealt** は過去分詞なので受動態の構成になりますが、「対処する」という意味では **deal with** で群動詞と考えるため不完全です。また、**deal** の他動詞は「分配する、配る、与える」などの意味になるため、意味が不自然になってしまいます。

**3. The final inspection has been put off until next Tuesday.**

「最終検査は来週の火曜日まで延期されました。」

解説 : **c. been put off (be 動詞の過去分詞+put の過去分詞+off)** が答えです。**put off** は「延期する」の意味になります。**put** は同じ形で過去形、過去分詞と変化するため **put** で過去分詞となります。現在完了形の受動態の構成なので **have(has)+been+過去分詞** という構成になります。

**a. put** 「置く」(動詞) は原形、過去形、過去分詞のいずれにも考えることができます。そのため、**have put** としても **have+過去分詞** になるので構成としては正しいです。でも、**put** は他動詞なので目的語(～を)が必要です。また、「置く」の主語が **the final inspection** であることも不自然です。**b. put off** についても構成的には現在完了形をつくれますが、**a. put** と同様に意味的に問題がありますし目的語も必要です。**d. been putting** を入れると現在完了進行形の構成となりますが、やはり **the final inspection** が主語である点と目的語がない点に問題があります。